

新潟県立看護大学・大学院 入学式



Niigata College of Nursing

新潟県立看護大学ニュース ポルティコの広場

vol.31
2017.7

「学長就任挨拶」

学長 小泉 美佐子



この4月から学長(理事長)に就任いたしました小泉美佐子と申します。出身は群馬県、東京の医科大学附属看護専門学校を卒業して、卒業後は大学病院の看護師及び看護師長として通算12年間ほど勤めました。30代半ばに千葉大学大学院看護学研究科修士課程(当時)に進学し、その後、短期大学、大学の看護教員となり、30年余り看護教育に従事しております。本学には6年前の平成23年4月に老年看護学教授として着任しました。その年の冬は結構な降雪で車の運転等に往生しましたが、雪にも慣れ、上越の暮らしを楽しんでいます。

本学は平成14年4月に看護の単科大学(看護学部)として開学し、看護師・保健師・助産師を養成してきました。平成29年4月には創立15周年を迎え、開学以来1,121名の卒業生を輩出しています。また、平成18年4月に大学院看護学研究科(修士課程)を設置し、これまでに65名の修了生を輩出しています。大学院では修士論文の研究に重きをおく研究コースのほか、高度実践看護師に位置づけ

られる専門看護師(Certified Nurse Specialist : CNS)を養成するCNSコースをがん看護学分野と老年看護学分野に2コース開設していて、専門看護師の認定資格を得た修了生は15名に及んでいます。

そして、今、大学はさらなる発展の時期にあり、平成30年4月開講を目指して大学院博士後期課程の設置を準備しています。今日、看護系大学において看護教員の確保が全国的に喫緊の課題となっていますが、将来、日本の看護学教育・研究、看護実践を牽引できるリーダーの育成を目指しています。

現在、看護職は病院勤務だけでなく、地域の保健活動、在宅における訪問看護、海外までその活躍分野が広がっています。そして、大学卒業後も大学院への進学を始め、様々な学習の機会が開けています。学生の皆さんには本学を生涯学習の起点として、将来に夢をもって学び続ける姿勢を培うことを期待しています。

平成29年6月7日

index

もくじ

- | | | |
|---------------|-----------|-----------------|
| 1 学長就任挨拶 | 4 新任教員紹介 | 7 看護研究発表会 |
| 2 新入生へのメッセージ | 5 新任教員紹介 | 学位授与式・修了式 |
| 大学院に入学して | 6 新事務局長挨拶 | 科研費採択状況 |
| 3 学外オリエンテーション | 事務局員の紹介 | 8 オープンキャンパスについて |
| | | いきいきサロン |
| | | 編集後記 |

新入生へのメッセージ



新入生の皆さま、入学から3ヵ月が過ぎようとしています。大学生活にも慣れ始め、授業やサークル活動に勤しんでいることと思います。また、この春から一人暮らしを始めた学生の方も一人暮らしにも慣れ始め、生活リズムなどもつかめたころではないでしょうか。新しい環境で新たな仲間との出会いや先輩とかかわりあう機会が増えて

きたころではないでしょうか。また、6、7月になるとテストなども本格的に始まり、学業のほうもだんだんと忙しくなってくると思います。テストに対して不安になることもあると思いますが、しっかりと予習や復習を重ねておけば乗り越えることができると思います。また、大学生活に慣れてきたからこそ悩むことも増えてくると思います。授業や進路のこと、他にも様々な悩みや相談事などがあると思います。そんな時は、オフィスアワー

などを活用し、先生方に相談することもできるので、いつでも頼っていいと思います。もちろん、同級生の仲間や私たち先輩もいつでも話を聞くので気軽に話してください。

新潟県立看護大学は看護学科のみの単科大学ということもあり横の学年のみの関わり合いだけではなく、縦の学年とのつながりも多くみられます。実際に入学して、皆さんもそれを実感されている方も多いのではないのでしょうか。また、あと少ししたら夏休みですが新入生の皆さんも予定などを立て始めているのではないのでしょうか。夏休み中はサークルなどで合宿を行うところもありますし、ボランティアの募集などもあると思います。様々なことに挑戦し、より充実した夏休みにしてほしいと思います。学生のうちにやれることを精一杯に励み、楽しいことをたくさんしてほしいです。

これから演習や実習も増え、忙しくなっていくと思いますが、大学の仲間、先輩と一緒に楽しく、充実した大学生活を送っていきましょう。

大学院に入学して



私は長野市の急性期病院に勤務しており、脳神経外科・神経内科・内分泌の混合病棟を経て、現在は救急外来に勤務しています。臨床経験は11年目となります。そのなかで、看護師として自分がこれからどうありたいか・何をしたいか深く考えたことはありませんでした。私の場合、看護専門学校の教務主任から「看護学校の先生にならない?」と声を掛けていただいたことが、自分の看護を考えるきっかけとなりました。看護専門学校の件は、諸事情により断念する形とはなりましたが、そこで初めて自分は何がしたいのか?患者様にこれからどんな看護を提供していけるのか?を考えました。私は高校を卒業後、介護老人保健施設で2年間勤務しました。ここでの経験が看護師を目指す動機となりまし

た。その経験や臨床での経験を振り返り、老人看護に携わりたいと思うとともに、より専門的な知識を得て患者様に看護を提供するためには、さらに学びを深める必要があると判断し、大学院の専門看護師コース進学を決意しました。

大学院の授業が始まり2ヶ月が経とうとしています。大学院の授業は、自ら講義課題を調べ、まとめたものをプレゼンテーションすることが主です。講義課題を調べ、まとめていく過程で自分の知識など足りないものが多いと痛感します。そのため、プレゼンテーションを行うことや各領域の先生方の講義・老年の先生方との毎回行われる熱いディスカッション、専攻領域の異なる同期の院生との意見交換はとても自分の知識を深めてくれます。さらに、自分のなかで看護における新しい選択肢が増えていきます。

大学院での学びを通し、より専門性の高い看護が提供できるように頑張りたいと思います。

大学院での学びを通し、より専門性の高い看護が提供できるように頑張りたいと思います。

4月14日(金)と15日(土)に学外オリエンテーションが行われました。学内でアイスブレイキングとチームになってインディアカを行い、熱戦が繰り広げられました。夕方からは黒姫高原にあるホテルへ移動しました。夕食後に他己紹介と、短時間でオリジナリティ溢れる作品になった「素敵な帽子」の紹介がされました。翌日は先輩を交えての懇談でこれからの大学生活のイメージができたようでした。新入生もますます仲良くなれたようで楽しい1日が過ごせました。



入学式から一週間ほどして、1泊2日の学外オリエンテーションがありました。1日目はインディアカを行いました。最初は初対面の人ばかりで緊張していましたが、練習をする中でグループの仲間との会話が増えて嬉しかったです。優勝を目指して、円陣を組んだり、掛け声をかけたりして、楽しむことができました。黒姫に移動してからは、同じ部屋の人たちと帽子づくりをしました。限られた時間の中で、相談しあいながら完成させることができよかったです。他己紹介では一人一人の個性がでていて、学年の友達を覚えるきっかけになりました。2日目は先輩方から大学生活について教えていただきました。勉強や一人暮らし、アルバイトについても詳しくお話を聞くことができ、とても参考になりました。

はじめは大学生活に対し不安ばかり感じていましたが、学外オリエンテーションを通して、不安を期待に変えることができました。たくさんの人と交流することができて、有意義な2日間でした。



先日行われた新入生の学外オリエンテーションでは、学校生活から私生活についても話をさせていただきました。1年生は大学生活が始まったばかりで、大学での勉強やサークル活動、1人暮らしに対して疑問や不安を多く抱えているようでした。きっと先輩と話すことも緊張していたのではないかと思いますので、これから親交を深めていきたいです。

自分が1年生のときには、看護とは何か、看護師とは何をやる人のだろうかと模索しながら授業を受けていました。みなさんもこれから初めての授業や演習、実習と大変な事が続くと思います。そんな大学生活の中でも大学の行事やサークル活動に参加する事で他学年の人と交流を深める事ができます。そこで自分の疑問や不安を先輩にぶつけたり、同学年の仲間と共有したりすることで楽しい大学生活につながると思います。これから新入生が大学生活を楽しみながら成長していけるよう応援しています。



入学してから1週間、少しずつ大学生活に慣れはじめた中、長野の黒姫で1泊2日の学外オリエンテーションがありました。一日目には「インディアカ」と呼ばれる競技を行いました。知り合っていない仲間たちとランダムでチームを組み、初対面の人ともスポーツを通じて仲を深めることができたと思います。その後宿泊施設へと向かい、帽子づくりをしたり他己紹介をしたりと、楽しみながら親睦を深めました。二日目は在学生の先輩方との交流の機会がありました。新生活への期待半面、勉強や一人暮らし、サークル活動やアルバイトなど様々な不安があった私たちでしたが、先輩方が親身になって相談に乗ってくださり、とても貴重な時間となりました。

学外オリエンテーションを通して多くの人と交流できたことは、今後の大学生活の大きな財産となると考えます。これからも多くの経験を通して、有意義な4年間にしていきたいです。



4月に行われた学外オリエンテーションに参加させていただきました。参加させていただいて1年生の顔を見たとき、3年前自分も多くの不安を抱えて入学してきたことを思い出しました。質問内容を聞いてみると、1年生は多くの不安を抱えており、その多くは実習や勉強に関することであることが分かりました。

看護職は多くの知識と技術が必要とされます。そのため、大学では多くのことを新たに学ぶことになります。1年生はこれから看護師とはどのような職業であるのか、基本理念から学んでいくことになります。3年次には約5か月実習に出て、多くの学びを得ることになります。学びの量が多く、時には挫折しそうな時もあるかもしれませんが、そんなときはぜひ、先輩や先生方を活用してみてください。

1年生はこれから学生生活を送る中で辛いことも楽しいことも沢山経験していくと思います。卒業する時、「この大学に入って良かった」と思えるような学生生活を送ることができるよう応援しています。



新任教員紹介



副学長 地域生活看護学領域 精神看護学
教授 長谷川雅美

4月1日付で着任いたしました長谷川雅美と申します。私は富山県砺波市出身ですが、高校卒業後は東京、三重県で長く生活したことから、雪との共生生活を忘れておりました。三重大学から金沢大学に移り、ようやく傘を持ち歩く習慣、雪の大変さを思い起こした次第です。こちらは雁木通りが象徴するように積雪量も金沢の比ではないと冬景色を想像しております。しかし、大学周辺や高田城址公園など見事な桜の美しさ、壮大さに圧倒されました。またこれからはハスの花が一斉に開花ということで、美しい自然に囲まれた本学で心地よく仕事が遂行できると期待しております。

私の専門は精神看護学で、特にうつ病患者への対応を研究していますが、昨今の

社会情勢から、あらゆる「心の問題を抱えて生活している人」を対象として幅広い視点で精神看護を展開しております。精神科受診者にとどまらず、臓器移植者(ドナー)、がん治療者、認知症者の家族、産後の精神問題など、人生で起こりうる人々の心の葛藤に耳を傾けています。前任地の金沢ではうつ病患者の当事者グループを立ち上げたり、メンタル看護相談外来を病院内に設置したりして、「看護職にできる、看護職だからできる」ことを具現化して参りました。これからも地域に沿った看護の在り方を探っていきたいと思っております。

私は、県立看護大学の使命は県内の看護の質的向上に貢献することであると考えております。本学から多くの優秀な看護職者を輩出すること、県内の看護教育に様々な形で寄与することを目標とし、さらに博士課程設置に向け、県内外の大学との連携、国際的視点に立った教育内容の充実など看護教育のロールモデルとなるような大学独自の取り組みと新鮮で有効な情報の発信ができることを目指し、諸先生のお力添えのもと、誠心誠意努める所存でございます。

どうぞよろしくお願いたします。



研究科長 基礎看護学領域 基礎看護学
教授 舟島なをみ

「ポルティコの広場」の読者の皆様。私は、本年4月1日から新潟県立看護大学の教員となりました舟島なをみと申します。看護師として13年、短期大学教員として5年、千葉大学の教員として24年間勤め、そして新たな職場として上越の地にある新潟県立看護大学を選択いたしました。

専門は看護教育学であり、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育に関する研究とともに数年前から教養教育に関する研究にも着手しております。具体的には、看護師の離職の大きな要因ともなっている医療事故に関心を持っており、看護を提供する看護師、そして、実習を行う学生が看護の対象の安全を守るために役立つ知識や手段の開発に向け、研究を進めております。また、教養教育は専門

の教育とともにすべての大学の学生にとって重要です。医療安全の研究と平行して質の高い教養教育を展開するために必要な知識や手段の開発を目指しております。

東京生まれの東京育ちであり、雪国の生活を知らない私のこの選択は、家族、友人、知人などに少なからず波紋を投げかけました。そのような状況下にあつての異動でしたが、母のふるさとである上越の地にご縁ができ、妙高の山々を眺めながら生活できることに満足しております。そして、景色の素晴らしさ、水のきれいさ、人々の温かさにこの選択は間違いではなかったと心密かに思っております。このニュースが皆様のお手元に届き、4ヶ月もしくは5ヶ月後、雪の降る時期にこの気持ちはどう変化するのか、また、しないのかそれも楽しみです。さらにたった一人で「看護教育学」という重要な専門領域を背負い、何かできるのか、それとも何もできないのか、それも楽しみです。叶うならば、「看護教育学」が育つ土壌を作り、種をまき、その芽吹きをこの目で確認したいと思っております。それに向かい、これまでそうしてきたように寸暇を惜しんで努力し続けたいと思っております。



臨床看護学領域 母性・助産学
教授 中島 通子

4月1日に着任いたしました中島通子と申します。上越には何らかのご縁があるようで働く機会を得ることができました。母性・助産学の教育に携わり随分時間が経ちました。しかしまだまだ頑張らないといけない、やらないといけないことが山積みです。

上越市は人口が減り少子化は進行しています。女性が成長し、次世代に新たな命を繋ぐそして家族を作りあげ、女性としての一生を終える、その過程を支援する母性・助産学はとても奥が深く魅力的な領域であると思っています。そこにかかわれる仕事ができて幸せです。学生を通し自身も学び、支援が提供できるそのように教育を通して支援を続けられることは教育にかかわっているからこそできるこ

とだと思います。

私は、根っからの助産師で「夫婦は、不安で苦しそうな表情から一瞬に満面の笑みを浮かべた顔に変化し、子どもは大きな産声をあげ、しがみつく」このダイナミックな瞬間を共有できる事に、生きがいを感じて助産師でいられたのかなと思えます。この経験を学生に是非伝えて行きたいと思えます。

北陸新幹線も開通し関西に帰省するにも随分速い時間となりました。居眠りしたら乗り越しをしそうな位に快適でそして静かな新幹線です。交通の便の良さで近隣からも多くの学生が入学してくれたいなと思っております。雪深い地域ですが、四季の移り変わりがはっきりしており、それもまた楽しみでもあります。好きなことは歩くこと、走ることです。マグロのように止まったら死んでしまう。そんな勢いでしょいか。

大学では、今までの研究で得られた知恵を、地域の方々との交流や学生をはじめ保健・医療・福祉の関係者の皆様とも共有してまいりたいと思えます。至らない点多々あるかと思えますがどうぞ宜しくお願い致します。



地域生活看護学領域 老年看護学
教授 小野 幸子

皆様、初めまして! 5月1日に着任致しました。北海道で生まれ、6歳から高校まで青森で育ち、東京で看護基礎教育課程卒業後、東京の大学病院で看護師と中間管理者として通算7年の臨床看護実践を経て、2校の専門学校、筑波・香川・岐阜・宮城の大学で看護基礎課程と卒後(大学院)教育を経験して参りました。

宮城大学定年退職後の昨年度は、特任教授として勤めましたが、12月に肺炎で職業生活上、初めて1か月の休養を強いられました。この療養で体力の著しい低下に直面し、責任ある仕事の継続は困難と考え、空き家同然になっている東京の自宅での生活がようやくできるとも思いました。そんな矢先、修士課程の先輩で、かつ筑波大学で一緒に過ごして頂いた小泉学長先生からお誘いを頂きました。また、学長先生と共通の恩師であり、前千葉大学看護学部長兼研究科長であられた野口先生(現在、本学の理事)のお勧めも頂き、今一度、奮起することに致しました。宮

城大学で一緒に働いた河原畑准教授が着任していることも心強く思いました。

研究は主に医療施設やケア施設における高齢者看護の質向上、とりわけケア施設における看護職の役割や認知症を含む高齢者の自然な最期の看取りを推進するために看護職、一般市民を対象にした研修会などを通じて取り組んで参りました。

現在は、ペットが可能なこととセキュリティを重視して探得した(1件のみでした)下門前の築24年(7階建の3階)の住まいを拠点にしています。凛とした妙高山と関川の土手の緑の美しさに感動し、新鮮な食の豊かさを楽しんでおります。また、状況を察して反応する愛犬に救われつつ健康第一の生活パターンをめざしつつの日々です。

着任しての1か月は、主に老年看護学領域における専門ゼミ、院生の教育・研究指導、修了生との事例検討会などに参加させて頂きました。先生方がひとり一人の学生に丁寧な教育、研究指導をされていることが印象的です。

県の皆様によって設立されたこの大学は、看護基礎教育や卒業教育とともに地域貢献を大切にしている大学と受け止めております。これまでの経験を活かして可能なことを見出し、努力して参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



地域生活看護領域 老年看護学
助教 大口 洋子

はじめまして。大口洋子と申します

冬になると全国版で放映される豪雪地の新潟県津南町で生まれ、今も暮らし続けています。これまで30年余り津南町で保健師として介護保険業務に数年携わりましたが主に保健の分野で健康づくり事業に従事してきました。豪雪地域で長年暮らす高齢者やその家族とのかかわりから、年をとっても一人になっても住み慣れた家で暮らし続けたいという高齢者とかかわってきました。さらに、義母の介護体験から、認知症になっても高齢になっても、自分らしく暮らせるためにはどうしたらよいかと考えるようになり、認

知症を含めた老年看護を学ぶために当大学院にお世話になりました。大学の学部生の研究フィールドにかかわる中で、住民自身の変化と学生の学びに触れ、教育に興味関心を持ちました。

看護を志す学生には人間として生きる意味や価値観を含めた倫理観を尊重して、妊産婦から高齢者のあらゆる年代のその人のセルフケアを高めながら健康の回復や平和な死への看護に寄り添える看護職になってほしいと考えます。これまで私が地域で暮らす高齢者をはじめとする住民とのかかわりから得た体験や住民の想い、生活の中から体験してきた高齢者のストレングスについて看護を志す学生の学びに生かせるよう努めたいです。

至らぬ事が多くありますが、教職員の皆様よりご指導をいただきながら、微力ですが自己研鑽に励み、教育と研究に精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



地域生活看護学領域 老年看護学
助手 東條 紀子

この4月より老年看護学の助手になりました東條紀子と申します。私は、一昨年、東京からターンし、上越での暮らしは今年で3年目を迎えました。豊かな自然に囲まれた生活環境は、この地に来なければ気づけなかった土との戯れ(にわか

ファーマーをしています)、雪との格闘(スノーダンプを初めて手にしました)など初めてづくしが多いですが、日々自然の恵みと厳しさを実感しながら楽しんでおります。一方、中山間地ならではの越冬入院など地域の医療事情の違いも初めて知りました。また、医師不足による診療科の休止や、毎日開設できない外来診療科があることなど、地域医療の確保が難しい深刻な実状や課題も知りました。私自身がこうした地域医療の状況を理解した上で看護・教育活動に臨む必要性を痛感し

ました。

さて、私は東京都立病院で臨床経験を積んだ後、看護専門学校で看護教員としておりました。臨床では、がんの専門病院に永らく勤め、急性期からターミナル期にある方の看護を経験してまいりました。看護教員としては、老年・在宅看護の領域での教育に主に従事してきました。看護教員は、講義や演習、臨地実習等や、研究活動など多岐にわたる職務があると思います。看護専門職の育成に携わるといふ責任の重さがありますが、学生の成長が見られることや看護の魅力伝えていけること、そして看護の質を考え、新たな知識を研鑽できる職務はやりがいがあると感じています。

縁あって、私は、一昨年、本学で実習助手をさせて頂き、昨年は大学院において、地域看護学領域の研究科に属しています。自らの学業と両立させながら、職務を遂行していきたいと思っています。大学での教育・研究活動は初めてで、不慣れなことがあると思いますが、教職員の皆様よりご指導を頂き、大学の教育活動に寄与できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願致します。



臨床看護学領域 小児看護学
助手 室 亜衣

はじめまして。この4月より小児看護学の助手になりました室亜衣と申します。

私は、本大学の第3期生として卒業しました。卒業後は長野県立こども病院で6年間、その後は新潟県立中央病院の小児科で1年間勤務してお

りました。

まず臨床でのお話をさせていただきます。私はNICU(新生児特定集中治療室)で働いていました。NICUは予定日より早く小さく生まれたお子さんや、出生時から疾患をもった赤ちゃんが入院する場所です。赤ちゃんは言葉で自分の意思を伝えることができないため、私たち看護師が少しの変化も見落とさず、代弁者になり看護をしていかなければなりません。NICUの赤ちゃんは、しゃっくりやモゾッと少し動くだけでも容体が悪化することが多くあります。私たち看護師

は目が離せず、8時間の勤務ですっとベッドサイドにいることもよくありました。とても大変な環境ではありますが、400～500gで生まれた赤ちゃんがたくさん困難を乗り越えて成長し、お母さんのおっぱいをしっかり飲むことができるようになり、NICUを卒業していく瞬間は言葉に言い表すことができない大きな喜びややりがいがあります。そして一人でも多くの赤ちゃんを助けるサポートをしたいと思い、NICUで看護を行ってきました。こうした中で「見る」ということの重要さを学んできました。

臨床での自分への課題もまだまだ多くありましたが、違った視線やフィールドから小児看護を考えてみたいと思い、大学へ入職させていただきました。

入職後は小児看護学演習などで学生と関わることで、学生たちの新鮮な気づきや発想に感動しています。実習や演習を通して、学生が子どもたちにとっての最善のケアを考えることができるように、一緒に学び、サポートしていきたいと考えています。

至らない部分が多々あると思いますが、教職員の皆様のお力添えをいただきながら、日々努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



新事務局長挨拶



事務局長
水沢 泰正

4月1日付けで事務局長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、これまで、県職員として様々な分野の業務に携わってまいりましたが、保健医療福祉行政は最も長く経験を積ませていただいた分野です。看護との関わりも県立病院の管理を行うセクションの勤務をはじめ、少なからぬものがあります。このたび、資質の高い看護人材の育成を目指す県立看護大学において仕事をさせていただくことに感謝と喜びを感じているところです。

一方、上越市は初めての赴任地であります。残雪輝く妙高の山々、高田公園をはじめとする町々のこぼれんばかりの桜、桜、桜……。うっとりするような美しい風景に迎えられて、自宅のある長岡市からの毎日の長距離通勤も苦になりません。歴史

ある高田のまち歩きも、機会を作って楽しんでみたいと思います。

さて、新潟県立看護大学は平成14年に開学し、本年4月に創立15周年を迎えたところです。この間、平成18年には、複雑化、多様化する社会ニーズに対応すべく更なる上級看護職者として能力向上に寄与するため大学院看護学研究科(修士課程)を設置、また、平成25年には公立大学法人化し、計画管理に基づく質の高い業務執行、効率的な大学運営を図っています。

しかし、少子高齢化が進み、成熟社会とも言われる今、保健医療福祉を取り巻く環境の変化のスピードはさらに増えています。このため、本学においても大学院博士後期課程の開設、第二期法人中期計画策定に向けた諸準備など、大学がその使命を果たすための様々な取組みを進めているところです。

諸先輩方が積み重ねられた実績を損なうことなく、本学の更なる発展のため、浅学非才の身ながら、職務に励んでいきたいと存じますので、皆様よろしくご指導お願い申し上げます。

事務局員の紹介

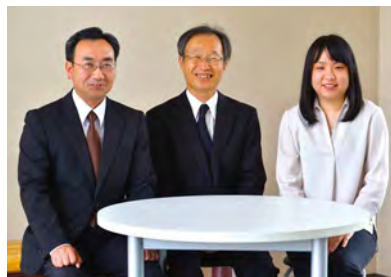


庶務係

庶務係は、大学における日常の基本的な事務を担当しています。

大学施設の維持管理、文書・荷物の集配、収入や支払いなどの経理事務や学長秘書業務まで多岐にわたっています。大学運営を円滑に進

めるための土台の業務をしっかりと行うことで、間接的に学生の皆さんのお役に立ちたいと思っています。



経営企画係

経営企画係は、主に大学の経営方針や予算編成に関する業務を担当しています。学生の皆さんと直接接する機会は少ないですが、学生が学ぶ環境をどのように整備していくか、また、どのように地域に貢献していくかを考えなが

ら、看護大学がさらに発展していくことを目指し、日々奮闘しています。



教務係・看護研究交流センター

教務係は、成績や時間割、講義室の管理をはじめとして、授業のお手伝い、非常勤講師との連絡、大学の規則やカリキュラム等の変更の際の文部科学省への申請や届出、そして入学試験に関する業務を行っています。先生には間

けない授業の悩みや疑問がある場合は、教務係へご相談下さい。

看護研究交流センターは、大学の教育・研究の成果を地域へ還元することを目的とし、地域と大学が共に成長していくための橋渡しを担っています。



図書学生係・保健室・図書館

図書学生係は、在学・成績証明書など各種証明書等の発行を行っています。また、授業料減免、奨学金貸与や国家試験、就職、自治会・サークル活動など大学生活を送る上での様々なサポートを行っています。

保健室には、専任保健師が在室し、けが・体調不良者への対応や健康相談に応じています。

また、図書館では、勉強に役立つ図書の選書・収蔵を行うと共に、利用者から保健・医療について知りたい情報がある場合は、図書館員が資料や情報源を提供するレファレンスサービスも行っています。

平成28年度 看護研究発表会

平成28年12月20日に看護研究発表会が行われました。95名の4年生が、4年間の集大成としてまとめた看護研究の発表は地域に公開され、実習病院などの方からもご参加いただきました。学生は1年間専門ゼミナールI・IIで研究のプロセス学ぶことや研究論文を書くという課題に取り組み、各々が研究の成果を発表することができました。



平成28年度 学位授与式・ 修了式

平成29年3月9日に第12期生の学部生95名が卒業し、大学院第10期生の大学院生13名が修了しました。学部生は4年間にわたり看護学を学び、それぞれ看護師へ、保健師へ、助産師への道に進むこととなります。本学で学んだことを基礎にしてそれぞれの道を極めてほしいと思います。

大学院生は大学院で専門的な学習を深めました。それぞれの専門分野で活躍されることを期待します。みなさんおめでとうございます。



科研費採択状況

平成29年度科学研究費採択課題一覧

1. 継続課題

研究代表者	課題(期間)	研究種目
舟島 なをみ	医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の開発	基盤研究B
高柳 智子	脳血管疾患患者の乗降時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発(26~29年度)	基盤研究C
境原 三津夫	性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築(27~29年度)	基盤研究C
飯吉 令枝	豪雪地域の高齢者が自立した栄養・食生活行動を維持するためのサポートシステムの構築(27~29年度)	基盤研究C
渡辺 弘之	ベトナムのハンセン病村に住む子どもたちの自立支援と社会的統合(28~30年度)	基盤研究C
岩永 喜久子	チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究(28~30年度)	基盤研究C
舟島 なをみ	教養教育授業評価スケールの開発と有効性検証-授業改善システムの構築に向けて-(27~29年度)	萌芽研究
徐 淑子	ハームリダクション時代の依存症ケア:日蘭の文化的差異をふまえた国際比較研究(27~29年度)	萌芽研究
北村 千章	22q11.2欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築(27~29年度)	萌芽研究
谷内田 潤子	新規糖尿病患者の未治療抑制に向けた糖尿病療養指導士による健診事後指導効果の検証(27~29年度)	若手研究B
平澤 則子	在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究(24~28年度)※延長承認	基盤研究C

2. 新規採択課題

研究代表者	課題(期間)	研究種目
石田 和子	がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価(29~31年度)	基盤研究C
岡村 典子	感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築(29~32年度)	基盤研究C
中澤 紀代子	助産師基礎教育から臨床への連動を意識した分娩後出血に関する教育プログラムの開発(29~31年度)	基盤研究C
天谷 まり子	妊娠糖尿病(GDM)妊婦における食事療法の適応状態に関する評価尺度の開発(29~31年度)	若手研究B

オープンキャンパスについて

新潟県立看護大学が「どんな大学か?」を知りたい皆さんのために、オープンキャンパスを開催します。
例年、体験講義・演習や在学生との懇談など、多彩なプログラムで実際に見て、聞いて、触れて、体験していただく内容となっています。
受験を間近に控えた高校3年生はもとより、社会人入学をお考えの方、保護者の方、看護系大学へ将来進学を考えている高校1・2年生も大歓迎です。
ぜひご参加ください。

日 時	平成29年8月7日(月)、8月21日(月) 各日とも11:00~16:00(受付は10:00から)
開催内容	<p>体験学習ありのコース(じっくり体験したい方向け)</p> <p>【午前】 ○大学・入試等の概要説明 ○資格取得説明 ○卒業生からのメッセージ など ※体験学習なしのコースと共通の内容です。</p> <p>→</p> <p>【午後】 ○在学生との懇談 ○体験講義・演習 ○施設見学</p> <p>→</p> <p>○個別相談(入試、学生生活、奨学金、就職等)</p> <p>※上記3つはコース別(A~F)に分かれて体験していただきます。</p> <p>体験学習なしのコース(概要をつかみたい方向け)</p> <p>【午前】 ○大学・入試等の概要説明 ○資格取得説明 ○卒業生からのメッセージ など ※体験学習ありのコースと共通の内容です。</p> <p>→</p> <p>【午後】 ○個別相談(入試、学生生活、奨学金、就職等) ○模擬講義</p>
申込方法	<p>事前予約が必要です(付添の方も予約が必要)。ホームページ、電話、FAX、メールのいずれかでお申し込みください。</p> <p>体験学習ありのコースについて 演習での安全確保のため、参加者は210名限定・先着順とします。また、コースは第1希望から第3希望までとりますが、ご希望に沿えない場合があります。</p> <p>体験学習なしのコースについて 定員はありません。</p>
申込期限	開催日の1週間前まで。希望者多数の場合、期限内に受付を終了する場合があります。
問い合わせ先	電話:025-526-2811 FAX:025-526-2815 E-mail:kyoumu@niigata-cn.ac.jp

※詳細は大学ホームページをご覧ください。http://www.niigata-cn.ac.jp/

いきいきサロン

今年度第1回のいきいきサロンが5月18日(木)に行われました。「温泉の楽しみ方と入浴法」のテーマで、温泉ソムリエ家元の遠間和広先生にお話しいただきました。当日は132名の方にご参加いただき、質問も活発で、温泉の楽しみ方や入浴法への理解がより深まる時間となりました。参加者の皆様からは、「温泉の適応症がわかってよかった」「温泉めぐりをしたくなりました」等、嬉しい感想をいただきました。

8月以降のいきいきサロンは、以下のような日程になっています。皆様も日々をいきいきと過ごすためのヒントを得るために、是非お越し下さい。



日 時	テーマ	講 師
9月21日(木) 18:30~19:30	ケアマネジャーって何する人?どう付き合う?	介護支援専門員 宮川玲 先生
10月19日(木) 18:30~19:30	笑ってすこやか、いきいき人生-4つの健康を目指しましょう-	笑いヨガ講師 渡辺恭子 先生
11月16日(木) 18:30~19:30	最期まで自分らしく生きるために	新潟県立看護大学小児看護学 准教授 大久保明子



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編 集
後 記

今年度は、学部生96名、大学院生11名の新入生を迎えました。また、教職員も新しい方々を迎え新体制となり、このような多くの新しいパワーをいただきながら新年度がスタートしています。31号では、そんなパワーあふれる大学の様子をお伝えできればと思っています。これからも「ポルティコの広場」を通して、学生生活の様子や大学について、より良く知っていただけるような記事づくりを目指していきます。

入試・広報委員：石岡幸恵・川島良子

<http://www.niigata-cn.ac.jp/>

発行日:2017年7月20日